

※撮影時のみマスクを外しています

都市活動を支え、健康と暮らしを守る — 歴史が安心の証し —

未来に向けた挑戦

AI(人工知能)を活用し、漏水リスクの高い場所の予測や、赤外線カメラ搭載ドローンによる点検など、民間企業との実証実験にも取り組んでいます。最新技術の導入で、施設のより効率的な維持管理をめざします。



1910年

市の水道が給水を開始



大道筋での水道敷設工事の様子



水不足に備えて築造された天王野水池

1952年

下水道事業の開始



市で最初の下水処理施設、三宝下水処理場(現・三宝水再生センター)

1960~70年

高度成長に伴う拡張



泉ヶ丘第3配水場(現・桃山台配水場)の築造工事

現在

「拡張」から 「持続・進化」の時代へ

人口減少社会を迎え、これまで「つくり」続けてきた上下水道を、これからは「まもり」続ける必要があります。市内各地に整備した水道管が老朽化する前に順次更新し、地震による破損を防ぐため、継ぎ目に伸縮性を持つ耐震管を採用しています。学校や病院につながる水道管など、インフラとして重要な部分を優先して進めています。



耐震管(ダクタイル鉄(ちゅう)鉄管) ※日本ダクタイル鉄管協会より



水道管を通すためのトンネルを掘るシールドマシン

豪雨災害から 堺を守るために

激甚化・頻発化する豪雨災害への備えとして、計画的なハード整備とソフト対策の両面から進めています。中でも、2025年に完成予定の古川下水ポンプ場(堺区神南辺町)は、毎分約2,100m³の揚水能力(25mプール1杯分を15秒で空にできる)を持ち、周辺地域の浸水被害を大きく減らすことができます。ポンプ場が新しくなることで、耐震性能や津波・高潮に対する安全性も大幅に向上します。



建設中の古川下水ポンプ場



配水管理センターで市内すべての水道の配水状況を監視



水道水に必要な51項目の水質検査を定期的を実施

安全・安心な水を 届け続けるために

「蛇口をひねればおいしい水が出る」「使った後の水をきれいにして川や海に戻す」という当たり前と思われがちのことを「当たり前」に続けるため、水質や配水状況などを24時間・365日モニタリング。異常が発生した時には迅速に対応しています。また、大規模災害や事故などに備えて、定期的に訓練を実施しています。

ご存じですか?

避難所の上下水道設備

災害時に応急給水ができる組み立て式の給水栓(右写真)のほか、汚物を直接下水に流せる「マンホールトイレ」などを市内の小中学校などに設置しています。



給水栓「すいちゃんのピックリじゃぐち」

断水に備えて

水の備えをお忘れなく

断水に備えて、1人1日あたり3リットルの水を最低3日分は備蓄しましょう。備蓄した分を使いながら買い足していくローリングストック法がおすすめです。

3日分の目安
1人あたり9L

2Lの
ペットボトル
4.5本分



上下水道の利用がもっと便利に!

スマホアプリ「すいりん」

使用水量などの確認、料金の支払いやクレジット決済の申込ができるアプリです。影響が大きい断水などの緊急情報もお届けします。ぜひダウンロードしてください。



堺の上下水道を 未来へ引き継ぐために

私たちは、安全・安心なライフラインを確保し、将来も快適に暮らせるよう「続けることで、続く!」を理念に、変化を恐れず創造・挑戦し続け、信頼される上下水道をめざし続けます。2030年度までの取組と目標を経営戦略にまとめています。ぜひ皆さんからのご意見をお寄せください。

詳しくはこちら↓



上下水道局
経営企画室
竹田由美さん



問 上下水道局お客様センター(☎0570-02-1132か251-1132 FAX 252-4132)